

① 研究課題

化膿性関節炎の除外における関節液の尿試験紙検査の有用性

② 研究等の目的・概要

高齢者の急性単関節炎、少関節炎においては偽痛風が大多数を占めるが、一方で化膿性関節炎も存在する。前者はステロイド関節注射が第一選択であるが、後者ではステロイド投与は禁忌である。偽痛風の第二選択であるNSAIDsやコルヒチンは高齢者の場合、腎機能障害などの原因で使用できないことも多く、その場合にはステロイドの全身投与が必要になることも多いが、これも化膿性関節炎には禁忌である。よって両者を正確に鑑別し、適切な治療を行うことが重要であるが、関節液検査の白血球数には両者の間でオーバーラップがあることが知られている。一方で、化膿性関節炎を否定するために関節液細菌培養検査の結果を待っていると、治療者の介入が遅れるため高齢者では短期間に身体機能が低下してしまうことがある。このような臨床的ジレンマを背景として、尿試験紙検査を関節液に使用することで化膿性関節炎を除外できるという報告がある。しかし、これらの報告は関節液検査を行った全患者を対象としており、若年者や多関節炎の患者含んでいる。よって、本研究では高齢者の急性単～少関節炎における尿試験紙検査を関節液に使用した場合の有用性を検証することを目的とする。

③ 主任責任者

橋本市民病院 総合内科 医師 松下 翔

④ 研究期間

2023年4月19日～症例数が達成するまで

⑤ 研究等の対象、実施機関及び実施場所

橋本市民病院(和歌山県)、北須磨病院(兵庫県)、白河総合診療アカデミー(福島県)の共同研究

- ・65歳以上
- ・1週間以内に生じた3カ所以下の関節炎
- ・担当医の判断で関節液検査(一般、培養)を実施した人を対象とする。ただし、下記の条件を除く。
- ・人工関節
- ・抗菌薬投与あり

⑥ 研究等における倫理的配慮、人権擁護及び個人情報の保護について

本研究は、白河厚生総合病院および橋本市民病院の倫理委員会の審議を経て、実施する。北須磨病院においては独自の倫理委員会を持たないことから白河厚生総合病院の審議を経て実施する。具体的には、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、個人情報保護法および医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイドラインに基づき施行する。研究代表者は、研究の実施にかかわる文書を研究室の鍵のかかるロッカーに保存し、研究公表2年後に紙媒体に関してはシュレッダーで裁断し破棄する。なお、患者データに関しては、匿名化された情報のみをセキュリティの確立されたクラウドサービス上に構築したデータベースを入力し、保管する。同データベースには研究代表者および研究協力者のみがアクセス可能とする。その他媒体に関しては適切な方法で廃棄する。

⑦ 本研究に関するお問い合わせ先

橋本市民病院 総合内科 松下 翔

(TEL 0736-37-1200)